

創造、都市大好スタート

春高バレー	徐々にペースをつかむ
全国大会	と、ライトの小山やレ
1回戦	フトの中島、センターライ
の堀内の活躍で27-25	27-27
塙尻	25-25
都市大	0-0
大	土浦大

創造学園は序盤こそ硬さが見られたが、ライトの池田を中心に着実に加点して第1セットを25-18で奪つた。第2セットは、1セット目で課題だったプロックが随所で決まり、失点するなど主導権を握った。都市大塙尻は第1セットの立ち上がりにいきなり3連続失点を許すと、その後も連続で中盤に7連続失点を許すが、粘りのバレーボールで27-25と競り勝つ。第2セッターで先取した。第2セッターで先取した。

第68回全日本バレーボール高校選手権大会（春高バレー）は3月1日、東京都の東京体育館で開幕し、男女の1回戦各20試合を行つた。県代表の男子・創造学園は埼玉栄（埼玉）に2-0で快勝し、女子・都市大塙尻も土浦日大（茨城）に2-0のストレート勝ちで2回戦に駒を進めた。6日は男女とも2回戦があり、創造学園は郡山北工（福島）と、都市大塙尻は三重とそれぞれ対戦する。

(山浦雄一郎)

追い込まれてからの強さ
が都市大場所にはある。少
勢でも動じない精神的な力
くましさと選手層の厚さが
強さの下支え
になつてい
る。



【都市大塩尻】—土浦 日大】第1セツト、ス バイクを決める都市 大塩尻の小山

初戦敗退だつた前回大人の雪辱をまずは果たした。岡田隆安監督は「全員バーチで上っていきたい」と力を戦、その上を見据えた。(山浦雄一郎)

そのトスを決めたのがラ
イトの小山菜央（2年）で
「序盤で離されても負ける
気はしなかった」。平常心
と闘争心を失うことなく、
力強いスパイクをたたき込
んだ。

1セット途中からコートに立ったセッターの佐藤優華(1年)だ。「プロッカ」がレフト側に寄っていたと冷静に分析してコートに立つと、レシーブがレフト側に流れても、ライトにトスを振って相手ブロックをかく乱し、要所でツアータックも見せて存在感を出した。

■この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。

無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会